



旭川医科大学\*

教授 **高原 幹**

(\*旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)

## 臨床と研究が両立する 教室運営を

先達の伝統を引き継いで

このたび、2024年（令和6年）1月1日付で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の教授を拝命いたしました高原幹と申します。就任にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

旭川医科大学は医学部医学科のみの単科大学として1973年に誕生し、耳鼻咽喉科学教室は1976年に初代教授・海野徳二先生により開講され、本教室の礎が築られました。その後、1998年に二代目教授として原淵保明先生が就任され、さらなる飛躍の発展を遂げ、このたび、私が三代目として昇任致しました。伝統ある本教室を主宰していくことは身に余る光栄であり、同時にその責務の重さに身の引き締まる思いであります。

私は北海道足寄郡足寄町という十勝地方の出身です。同年代の方であれば、松山千春さんの出身地と言えば理解していただけるかもしれません。旭川医科大学には1988年に入学し、卒業後、本教室に入局いたしました。その後、大部分の医師生活を本学にて過ごさせていただいております。

研究に関しては、主に鼻性NK/T細胞リンパ腫と扁桃病巣疾患の病態解明を行ってきました。2003年から2005年まではスウェーデンのカロリンスカ研究所にて留学の機会も頂きました。出発前は結婚、学位取得、留学準備と異様な慌たしさでしたが、留学後はスウェーデンの気風も相まって、心和やかに

研究に没頭したのを覚えております。帰国後は扁桃病巣疾患の基礎的・臨床的研究を中心に研究を継続しております。

2019年には「扁桃病巣疾患診療の手引き作成委員会」の委員長として日本口腔・咽頭学会よりご指名を頂き、コロナ禍での困難な時期を乗り越え、2023年に無事、『扁桃病巣疾患診療の手引き2023』の発刊を迎えました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ちなみに、2200円（税込み）で協和企画より絶賛発売中です。

臨床的には、主に頭頸部腫瘍の診断・治療を担当しております。旭川という地域の特異性もあり、バラエティに富んだ症例と出会い、そのたびに悩みながら、経験を積ませていただきました。現在でも、時に背中に汗をかきながら、より良い治療を提供すべく、真摯に取り組んでおります。また、内視鏡補助下甲状腺手術、内視鏡下唾石手術は、保険収載前から本教室に導入し、症例数は全国でも有数であると自負しております。

年齢的に若いスタッフで構成されている当教室ですが、私が自慢できるやる気に満ち溢れた優秀なスタッフが揃っております。彼らとともに、臨床と研究に、アクティビティの高い教室運営を行ってまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。